

危機的状況にある八重山圏域人工透析医療体制への早急な支援を求める意見書

八重山郡内の人工透析患者は、1990年代は100人以下であったが、高齢化や本島と比較しても肥満や高血圧、糖尿病などリスクを抱えた人が多い事が要因で、2001年に患者数は100人を突破、その後も増え続け直近の患者数は170人余となっており今後も増加傾向にあるが、深刻な人手不足により1～2年で人工透析医療はパンク状態となり、年内にも郡内の新たな患者は、本島での人工透析医療を受ける事になると予想される事態となっている。

また、既に人工透析医療が必要な郡内出身者の帰省時や旅行者の透析の受け入れを断っている状況にもある。

このような状況下にあることから、八重山で人工透析医療を実施している県立八重山病院、石垣島徳洲会病院、よなは医院の3医療施設の院長や医師、看護師長、透析スタッフが、人工透析医療の危機的な状況や今後の対策について協議を行い、安定した人工透析医療継続に必要な医療スタッフの増員を沖縄県病院事業局に要請しているが、必要とする増員には全く足りない状況であり、県内医療機関を網羅しての対応が必要となっている。

よって当市議会は、危機的状況にある八重山圏域の人工透析医療体制への早急な支援を強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和5年1月17日

石垣市議会

宛先 沖縄県知事、沖縄県病院事業局長

参考送付 沖縄県議会議長、八重山選出県議会議員